

王滝村地域おこし協力隊 協力隊だより

令和8年7月1日
発行



六月十五日（月） 地域おこし協力隊 着任

王滝村地域おこし協力隊に新しいメンバー1名が加わり、七月から2名の協力隊で活動を行っていく事となりました。



新しい協力隊の担当は「情報発信」及び「空き家対策」です。海外の顧客を相手にしたプロジェクトマネジャーとしての就業経験、エクアドルやスペインへの2年間の留学経験、人類学のフィールドワークに取り組んできた経験を持つ協力隊を採用しました。

現状、「情報発信」と「空き家対策」に対して村が抱える課題、第6次総合計画を踏まえた解決策、村が掲げる具体的な数値目標及び協力隊が活かす事を期待されているスキルは以下の通りです。

	課題 (Challenges)	解決策 (Solutions)	数値目標 (Targets)	協力隊のスキル (Required Skills)
情報発信	①移住・定住・関係人口の拡大 ②御嶽山国定公園のPR ③村役場独自の取り組み発信	①移住者目線での魅力深掘り ②田ノ原を中心とした観光戦略拠点化 ③役場各課への取材・参画	移住者数: 19人/年(R7) → 25件/年(R12) 御嶽山登山客: 1.4万人(R7) → 3.0万人(R12)	・SNSマーケティング ・御嶽山火山マイスター ・アウトドア店舗販売(3年) ・ネイチャーポジティブ発電所企画 ・英語(TOEIC 915) / スペイン語(DELE C1) ・人類学のフィールドワーク
空き家対策	①最新の現状(特定空き家含む)未把握 ②目標移住者に対する物件不足	① R5 空き家調査データ整理 ②適正管理チェックリストの作成 ③空き家バンクの登録推進	バンク登録件数: 4件/年(R7) → 8件/年(R12)	・人類学のフィールドワーク

参考：王滝村 令和8年3月『第6次王滝村総合計画』

伊藤 主峰 (いとう かずね)
令和8年度採用



この度、神奈川県横浜市から、地域おこし協力隊として移住させていただきました伊藤主峰です。

まず、御嶽山の麓に位置し、独自の「自然」、「歴史」、「文化」が築かれてきたこの王滝村に暮らせることを、心から感謝しています。

令和6年4月に新卒社員として入社した自然電力株式会社(再生可能エネルギーの発電所建設会社)では、同じ御嶽山の麓の木曽町三岳にてプロジェクトマネジャーとして働く機会をいただきました。





1年半の長期出張の間、春に山菜を採り、夏は王滝川の支流で溪流釣りをし、秋にはキノコを採り、冬にはすんきを作るといった季節ごとの山の営みを体験しました。その度に自分の「いのち」は脳に蓄積された知識だけでなく、五感で感じ、自らの手足を動かして身に着けた身体感覚も大切な一部であることに気づかされました。

王滝村では、生命活動の多くをお金で「外注」する都市生活とは異なり、自ら生命活動を維持する手応えのある山村の暮らしが営まれていると思います。同時にA I前提の世の中において、身体感覚を伴う職業への転換の必要性も日に日に強く感じるようになっていきました。

そんな中、地域おこし協力隊制度が王滝村でも活用されている事を知り、長期出張後の2025年秋頃から横浜と王滝村での二拠点生活を始め、協力隊の募集を待ちました。



そして、2026年春に地域おこし協力隊の募集が開始され、応募しました。王滝村に根差した「インバウンド登山ガイド」になる夢の実現とその過程でどのように村の未来に貢献できるかをお話し、採用していただきました。

王滝村に根付く御嶽山の自然、歴史、文化の流れを絶やさないため、自らがその担い手になり、世界に向けて発信する。そんな大きな目標を胸に協力隊として活動していきます。

◆六月十五日（月）王滝村総合戦略会議



戦略プロジェクトの令和7年度の事業評価及び令和8年度の事業計画の決定のための会議が保健センターで行われました。

戦略委員の皆さんからは、役場による新しい取り組みを評価し、次年度どのようにさらに改善ができるのか建設的な意見交換がなされていました。具体例として、「戦略プロジェクト②みんな育てよう地域の「宝」プロジェクト」に関して、校内懇談会を実施したことはとても良い取り組みである事が委員から評価されました。

◆六月十七日（水）田ノ原木道撤去作業

情報発信の一環として、村内の整備業務に参加させていただきました。田ノ原木道の撤去作業では、森林管理署、長野林業土木協会木曽支部、王滝村役場から合わせて50名ほどの皆さんが朽ちた木道の撤去作業にボランティアで取り組みました。観光を成り立たせるハード面の裏側がこのような想いを持った方々で支えられている事に感銘を受けました。



◆六月二十二日（月）村道草刈り作業

経済産業課建設水道係による村道の草刈りに参加しました。役場のリソースを最大限活用して自分たちの手でできないかを考える、その「自力」の精神が王滝村役場独自のユニークさであると感じました。

